

部門 函館大谷高等学校

教育目標 人間性 新しい文化創造をすると共に人間的・社会的関係については常に相手を捧ぐことのできる心豊かな人間の育成につとめる。  
 自主性 自己の信念をもって行動の自由と責任を体認させる。  
 積極性 人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。  
 協調性 お互いの人格を尊重し他をゆるしその意見を尊重する協調性を体得させる。

項目	行動計画（5カ年）	事業計画（令和2年度）	達成状況
教 育 保 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>他を認め、常に相手を捧ぐことができる心を持つことを生徒、教職員共通の目標とし、「選ばず、嫌わず、見捨てず」を依り所として、とことん寄り添う教育を行う</li> <li>建学の精神、教育理念と教育目標、学校目標を意識する中で日々の教育活動を行い、豊かな心、生きる力を育む真人間教育を推進する</li> <li>少人数制の選択授業による、感性を育む芸術選択科目と多様なニーズに対応するオープン選択科目、より専門的な実技の習得を目指す専攻実技科目など、コース制のさらなる充実、発展を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者に誠実に向き合い、互いに認め合うことができる高い信頼関係の構築を目指す</li> <li>かけがいのない「わたし一人」の発見と自覚を促し、その「いのち」を尊重し合う自己の実現を促す宗教行事等を実施する</li> <li>新学習指導要領に対応しつつ、より特色あるカリキュラムを編成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね信頼関係を築けている</li> <li>令和2年度は花まつりは中止、報恩講は教職員のみで実施するなど、行事は十分におこなえなかったが、宗教の授業やHRを通じ、学校として「いのち」を見つめる教育をおこなった</li> <li>引き続き検討を進めている</li> </ul>
支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な背景をもって入学してくる生徒一人ひとりを尊重しながら学校と保護者が一体となった生徒支援を実現し、生徒の認識を変容させるとともに、「全ての生徒の学力を向上させる」ことを最優先課題とする</li> <li>生徒の進路意識を涵養するイベント等への積極的な参加や就業体験、個人の希望を叶える柔軟な進路指導講習の開講等の取り組みを推進する</li> <li>生徒会、部活動等の課外活動への適切なサポートを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学前テキストや学びの基礎診断の活用による基礎学力レベルの把握と補修、講習等による対策</li> <li>QUテストの実施と分析による学級及び学校生活満足度の把握と対策</li> <li>新入生の入学前父母面談をはじめとする定期的な保護者面談の実施</li> <li>地域レベルの進路フェア等への参加や本校の開催によるガイダンス（一斉相談会）の実現</li> <li>多様な職種へのインターンシップ参加</li> <li>希望学校、職種に応じた柔軟な補習、講習の実施</li> <li>外部施設を活用した活動への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症による臨時休校などもあり、難しいところが多かったが、可能な対策をおこなった</li> <li>年2回実施し、HR運営などに活かした</li> <li>実施し、活用した</li> <li>新型コロナウイルス感染症により大型の集会等が開催されず、本校独自の施策も実施することが困難であった</li> <li>マイナビのサービスによって新しい形での就業体験をおこなった</li> <li>放課後および長期休業中の講習を実施した</li> <li>サッカー、卓球、野球および陸上等の部活動で外部施設を活用し、施設の不足を補った</li> </ul>
募 集	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実践内容の地域、生徒および保護者への周知を促進する</li> <li>年間を通じた積極的な生徒募集活動を実践する</li> <li>適切な経済的支援を施策する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通授業見学の継続実施</li> <li>WEBサイト等による広報活動の充実</li> <li>就学支援金等の公的支援の適切な活用に加え、所得に因る入学金の減免をはじめとする独自の支援の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、見学者は減少した</li> <li>WEBサイトへの記事掲載の仕組みを刷新し、タイムリーな更新を図った</li> <li>新型コロナウイルス感染症による家計急変に授業料軽減措置で対応するなど、柔軟な支援に努めた</li> </ul>
管 理 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年の生徒数増に対応し、かつ将来の少子化傾向にも対応しうる体制を整備する</li> <li>併設する函館大谷短期大学との連携を深め、5カ年一貫カリキュラムを推進する</li> <li>自己、関係者及び第三者による評価を実施し、学校運営へ反映する</li> <li>安心して通い学べる学校の実現を施設設備面からも推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間雇用及び非常勤講師の活用</li> <li>教員の交流及び施設設備の相互利用を推進</li> <li>関係者評価を実施するとともに、各評価内容の教職員への周知を徹底し、改善への意識を共有する</li> <li>非構造部材の耐震化</li> <li>ICT環境の整備と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準教員数を下回る構成を非常勤講師を活用することにより補った</li> <li>短大への進学を想定し、人材交流や施設の相互利用をおこなった</li> <li>北海道大谷学園連合会による相互評価が中止されたため、違う形での評価を検討している</li> <li>体育館のバスケットゴール計6機を交換し、耐震化をおこなった</li> <li>GIGAスクール構想に対応すべく教員に一人一台の端末を準備し、生徒の使用の検証を開始したほか、オンライン授業にも対応しうる校内のネットワーク環境の整備を開始した</li> </ul>